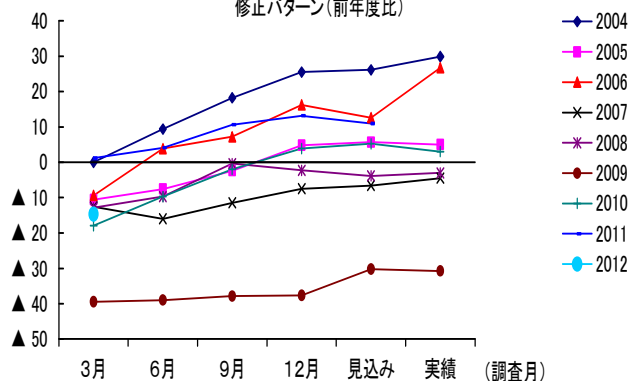


慎重姿勢が続く中小企業・非製造業の設備投資

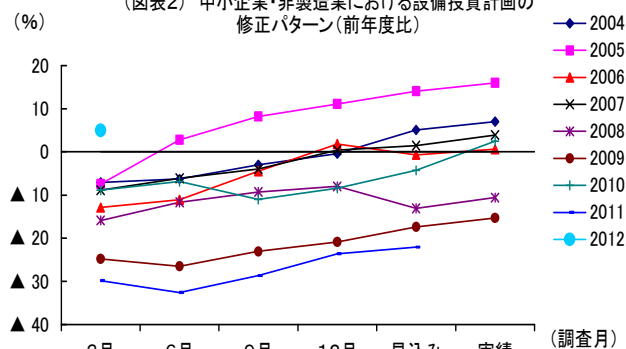
- (1) 日銀短観3月調査によると、中小企業の2012年度設備投資計画（ソフトウェアを含み土地を除く）は、製造業が前年度比▲14.7%とほぼ例年並みの数値となった一方、非製造業では同+5.0%と期初計画としては非常に高い数値（図表1、2）。非製造業の内訳をみると、不動産と個人向けサービスが大きなプラス寄与。中小企業の設備投資計画は、年度が進むにつれて上方修正される傾向があるため、非製造業の2012年度設備投資は最終的に+14%程度まで上振れる可能性。（2007～11年度における修正パターンの平均値より算出）
- (2) もっとも、中小企業・非製造業の設備投資スタンスが強気に転じたと評価するのは早計。設備投資額をみると、2012年度の計画は直近ピーク（2005年度）の半分以下の水準にすぎず（図表3）2012年度のプラス転化は、不動産や個人向けサービスをはじめとした2010～11年度の大幅減少の反動という側面が大。
- (3) 加えて、内需低迷が続き、売上拡大の展望が描きにくい状態が続く可能性が高いことを勘案すると、中小企業・非製造業の設備投資が本格回復に転じるのは期待薄（図表4）。以上を踏まえると、中小企業・非製造業の設備投資は、2012年度に大幅プラスを達成したとしても、依然として慎重姿勢が続いていると判断すべき。

(図表1) 中小企業・製造業における設備投資計画の修正パターン(前年度比)



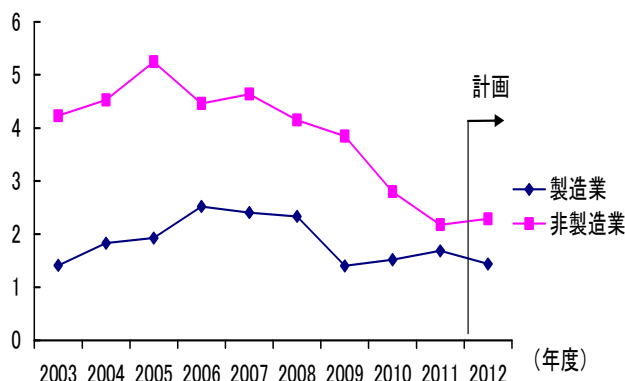
(資料)日本銀行

(図表2) 中小企業・非製造業における設備投資計画の修正パターン(前年度比)



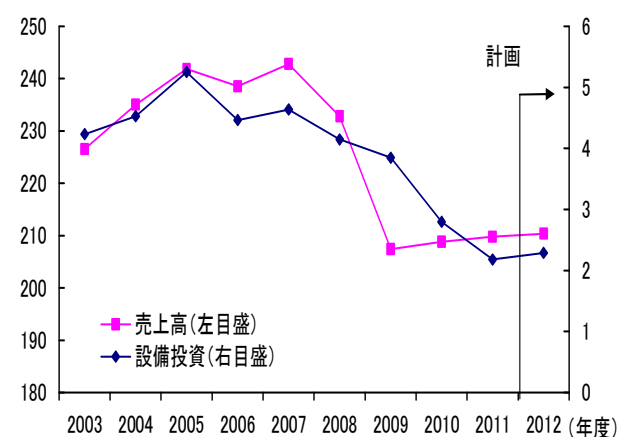
(資料)日本銀行

(図表3) 中小企業の設備投資額



(資料)日本銀行

(図表4) 売上高・設備投資(中小企業・非製造業)



(資料)日本銀行